

(写真：UNHCR/Kaoru Nemoto)

モンスーンが終わって乾期に入り、ネパールは最も美しい季節を迎えています。空気が澄み渡り、海拔 100 メートルの亜熱帯地域にあるこのダマクの町からも、バナナの木の後ろにカンチェンジュンガの雪山が見えます。カンチェンジュンガは日本では余り知られていませんが、標高 8586 メートル、エベレストとの差はわずか 258 メートルです。そんな世界の名峰を毎日見られるのは感激であると同時に不思議な気持ちです。10 月に 10 日ほど休みを取ってブッダの生誕地ルンビニやカト



美しいカンチェンジュンガの雪山を眺めて…

マンズ盆地の旧都、アンナプルナ山系のパノラマが目の前に広がるポカラなどネパール国内をまわり、あらためてこの国の素晴らしさを実感しました。随分とミニ・トレッキングをし、行く先々で気が遠くなるほどに延々と続く棚田を見つけ、感動のため息を漏らしていました。

さて、またしても象の話。隣国インドから国境を越えてネパールにやってきた象による被害で、ついに難民に死者が出てしまいました。キャンプの難民たちも、鍋やかんをたたき音を立てて追い払うなどしてはいるのですが、もっと対策を強化しなくてはと、難民キャンプの自警団メンバーにトレーニングを行うことを計画しています。

UNHCR ネパール事務所は、キャンプに暮らすブータン難民全員の状況把握をかねた「難民再登録」の作業を初めて UNHCR とネパール政府と共同で行うことを計画しており、その準備作業で忙しくしています。1990 年代初頭にブータンを逃れてネパールにやってきた当時、政府が難民の登録作業を行い、その後順次出生、死亡、婚姻、離婚、新しいケースなどを記録してはいるものの、10 万 6 千人全体を確認しアップデートするという作業はこれが初めて。エポックメイキングなことなので視察や出張で訪れる人々も多く、作業に関する追加人員を含めるとダマク事務所の規模も 35 人から総勢 90 人程度に膨れ上がりました。難民再登録作業で得られた情報をもとに、親と離別した児童や性暴力を被った女性、拷問の後遺症に苦しむ人々、心や身体に障害を持つ難民など、特別な配慮を必要とする難民たちをシステムティックに把握し、より充実した支援を計画することができます。また、再登録作業の際には一人一人写真を撮り、のちに写真入りの ID カードを発行する計画です。

毎日大変ではありますが、多くの先達が政府と交渉に関ったものの実施合意に至らなかったことを考えると、たまたまこうしたタイミングで現場をあずかるダマク駐在事務所の所長でいられるというのは幸いなことです。



「Clowns Without Borders」による楽しいショー

こうしたエポックメイキング的な事業で皆しやりきになっているときには、ユーモアと笑いが必要です。非常にいいタイミングで、「Clowns Without Borders」という NGO からアイルランド人のピエロ 3 人組みがブータン難民の慰問に来てくれました。およそ 2 週間ダマクに滞在して 7 つのキャンプに暮らす難民たち（大人も子供も！）と地域の子供たちにショーを開催し、アクロバット演技指導のワークショップも行いました。スタッフも随分と楽しませてもらいました。彼らは人をリラックスさせ、笑わせることにかけてプロです！！私も「てんぱっている」ときに彼らの一言で随分と気持ちが楽になったものです。今回は「Clowns Without Borders」が独自に活動費を集めて慰問してくださったのですが、幸い UNHCR 本部から若干の予算がつき、来年一月にまたやってくることになっています。今からすでに彼らの次の訪問が楽しみです。

こうしたエポックメイキング的な事業で皆しやりきになっているときには、ユーモアと笑いが必要です。非常にいいタイミングで、「Clowns Without Borders」という NGO からアイルランド人のピエロ 3 人組みがブータン難民の慰問に来てくれました。およそ 2 週間ダマクに滞在して 7 つのキャンプに暮らす難民たち（大人も子供も！）と地域の子供たちにショーを開催し、アクロバット演技指導のワークショップも行いました。スタッフも随分と楽し

2006 年 11 月 4 日

UNHCR ネパール・ダマク事務所長
根本 かおる